

品川支部

令和二年七月一日発行
〒141-0022
品川区東五反田1-8-5
Tel. 3442-7075

7月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

本部六月月次祭 復活の兆しが見えた

六月は、直属の会長、教区長に加え奈良県内の会長も登殿出来るようになっていたようですが、全員教服着用にてお互いの距離を取っての参拝でした。教祖殿、祖霊殿は入場不可、南と中庭はパイプ椅子は有りませんでした。一般入場も可能という状態でした。

今月七月からは土日、祝日は正午に拍子木を入れてのおつとめをされるとの事で、大人数での団体はまだですが、少人数では昇殿しての参加が出来るようになるというように、少しずつですが戻りつつあるようです。尚、お運び等は復活されているとの事です。



☆支部行事のお知らせ

・支部幹事会

七月九日（木）午後6時〜

場所 都南分教会

尚、都南さん普請準備により、八月の幹事会まで会場をお借り致しますが、その後、九月から当面会場を櫻京さんにお願ひすることになりましたのでお知らせ致します。

・支部例会

年初の予定では、今月は鶴平さんでしたがコロナ禍で五月開催がありませんでしたので水豊田さんに会場が変更になりました。

・教区ひのきしん
・神名流し

・在宅センターひのきしん

支部外の活動は
今月もお休みです

・スケジュール関連

教区では、六月は東京アラートが発令されました関係で主事会のみで、全体会議は有りませんでした。又、本部月次祭はおちば近隣の教会から徐々に参拝禁止が解除されつつ有ります。修養科、講習等も復活される予定です。

☆教区青年会からのお知らせ

引き続き

「コロナ募金」のお願い

この度のコロナウィルス感染拡大に伴い、青年会では今できる事として東京都主催の「守ろう東京・新型コロナ対策医療支援寄付金」への協力させて頂くとの趣旨で賛同者を募るべく左記の要領を支部に送付されましたので略して掲載いたします。

記

期間 八月四日まで

募集方法 「口座振り込み」

金融機関 ゆうちょ銀行

口座番号・名義

001604761375

天理教東京教区青年会

「書留郵便」の場合

「天理教東京教務支庁

コロナ募金」宛

豊島区駒込七丁目一の四

〒170-0003

（募金は寄付の際全て主事会監査を受ける事になります）

その他、教務支庁事務所前の募金箱に入れて頂いても同じ扱いとなります。

拠点教会	5日号	12日号	19日配達なし	26日号
日本橋	直送	直送	26日に合併	直送
本荏	直送	直送	26日に合併	直送
都南	直送	直送	26日に合併	直送
三ツ木	直送	直送	26日に合併	直送
水豊田	直送	直送	26日に合併	直送

時報手配り七月予定

品川支部例会

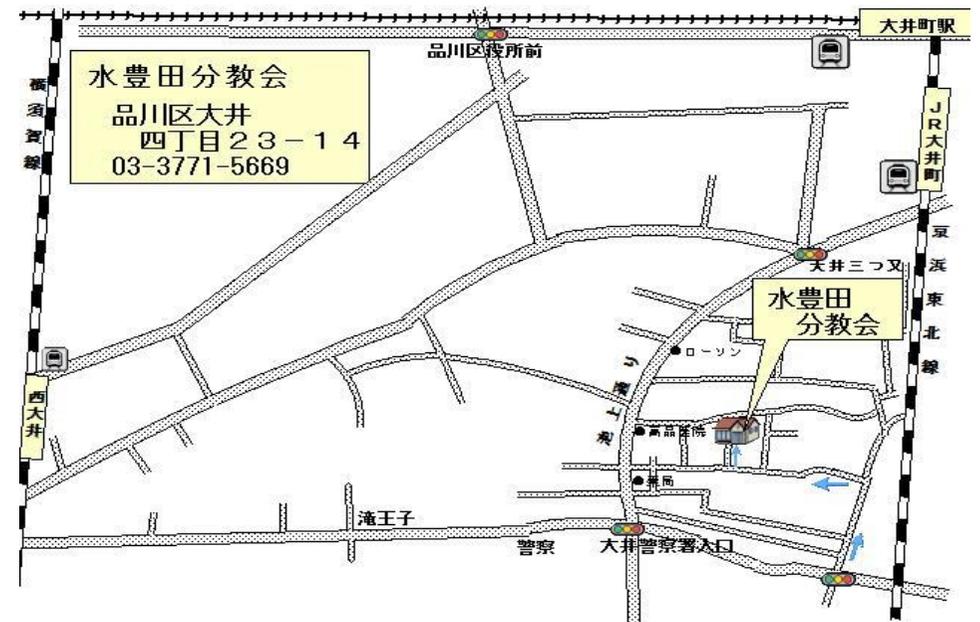
令和二年7月30日 (木) 11時開始

場所 水豊田分教会

(品川区大井四丁目23-14)

内容 座りづとめ よろづよ八首 七下目 東京教区、支部連絡事項 当該石田教会長挨拶 昼食の用意頂いてます

*各教会の方のほかどなたでも (白足袋ハッピー着用)



災害への備え



本荘大教会長

長期にわたる自粛生活、おつかれさまです。まったく想像もしていなかった慎みづくめの日々ももうすぐ半年になりますね。まだまだ終息という出口が見えませんが、心一つでどんな中も陽気に暮らすことのできる教えを頂く我々ですから、こんな中でも楽しみをたくさん見つけて、喜びいっぱいに通っていきたいと思います。

さて、先日、関東地方もついに梅雨入りの発表がありました。梅雨が明けると、いよいよ盛夏となりますが、今年の夏はどうやら猛暑になる可能性が高いなんていう予想がされています。東京オリンピックが延期になって、良かったんだかどうなんだか... また例年のことですが、八月以降は九月をピークに十月頃

まで台風の子供になりやすい予想されている発生数は平年並(26個前後)のようですが、年々その規模が大きくなってきているように感じられますので、風水害に対する注意が必要です。そして、今の我々がしっかり心しておかなければならない事は、新型コロナウイルスが流行している今年、こうした自然災害が、そのみにとどまらずに、感染症と重なる「複合災害」となる可能性が高いということです。現在、各自治体や関連団体が、「新型コロナウイルス流行下における災害避難について」や、「避難所における新型コロナウイルス感染症対策」ということに関して、ホームページなどを通じてそれぞれ見解を出しています。「品川区 コロナ 災害」で検索して頂きますと「新型コロナウイルス流行中の災害時における『避難の備え』について」というページがありますので、是非一度

ご覧頂きたいと思いますが、現在の状況下で災害が起った場合、避難所と呼ばれるような場所に大勢の人が集まることは感染症の拡大という大きなリスクがあるので、できるならば避けたいところです。そのためには、災害時にどこに避難をするのかを、あらかじめ取り決めておく必要があります。こういった場合に自宅での在宅避難にするかを、ご家族と一緒に話し合うことや、自宅にとまれない場合に、親戚宅や、上級教会など、避難先としてどこに身を寄せることが可能かを検討しておくことも大事だと思えます。また、通常の自然災害の際のような、全国から、迅速に、短期集中的に、現地に駆けつけるボランティアなどの災害支援も、感染拡大防止の観点から慎重な対応が求められ、従来のようには行われないう可能性が少なくとも三日をしのげる

分の水や食料を備蓄したり、停電対策として発電機を用意しておいたり、車の燃料を常に満タンにしておくなど、常時からできる対策を講じておくことも、決して無駄ではないはず。いずれにしても災害対策は多岐にわたりますから、複数人で協力してできる所から一つひとつ手をつけていったらいいのではないかと思います。繰り返しになりますが、現在は緊急時ですから、一人ひとりが、あるいはそれぞれの教会、家庭が、「防災」の意識を今まで以上に強く持つことが自己の身を守り、周囲の人の命を守ることに繋がります。お互いできる対策をしっかりと取りつつ、いつもと違う今年の災害シーズンをみんなで乗り切っていきたいです。

田中豊一

*田中先生は教区では災害隊の責任者として活躍されています